

第3回廿日市市大野支所及び周辺市有地有効活用検討委員会（視察）記録

日 時：平成23年2月25日（金）10:00～16:30

視察先：①道の駅「たけはら」（H22.10オープン）

竹原署跡地の有効活用策、竹原市の中心地、幹線道路に位置する

②呉市安浦市民センター（H22.12オープン）

安浦支所を建替え、呉市では市民センターの中に支所がある

参加者：委員14名、事務局5名

①道の駅「たけはら」 質疑応答

○跡地利用策として道の駅を選定したポイントについて

- ・まちなみ保存地区のゲートウェイとすることが大きな目的であった
- ・国道沿い（交通量13,500台/日）であることも道の駅の条件に合致した
- ・「みんなが集まれる場所」というのが地元要望であった
- ・国の財政措置を活用できるということも大きなメリットであった

○事業費について

- ・事業費は国（まちづくり交付金）と市からの支出のみであり、広島県からの支出はない
- ・事業費には用地費を含む（用地賠償等で費用が嵩んだ面がある）
- ・当市の場合は国土交通省が1/2以上を支出しているが、今後整備される道の駅については自治体主体の負担となるだろう

○運営方法について

- ・オープン当初は市の直営管理として、売上・利用者数等のデータ収集を行い、平成24年度から指定管理者制度の導入予定
- ・現在、営業部門（レストラン・売店）は竹原市地域ブランド推進協議会（市と商工会議所で設立）が運営し、その他の部門は市が運営
- ・現在、ホテル料理長経験者がフレンチイタリアンのレストランシェフを担当している
- ・商工会議所の関わりとしては、営業部門（レストラン・売店）の統括と運営
- ・できるだけ市内事業者が参加して欲しいという思いから協議会を設立した

○現在の利用状況について

- ・レジ通過は月平均10,000人前後（11月の15,000人がピーク、1月は利用客数低迷）
- ・客単価は1,000円～1,200円（レストランを除く）
- ・利用者数はレジ通過数であり地元/観光客の内訳は分からない→今後は地元/観光客を分けて把握したい

○財政的な運営の継続性について

- ・オープンから3ヶ月しか経っていないため、まだ何ともいえない
- ・1月に利用者が落ち込んだが、2～3月はまちなみのイベント等があることから集客が見込める
- ・当初の利用予測（年間10万人、売上1億6千万円）はクリアできる見込み
- ・指定管理者制度の導入時には、駐車場や情報コーナーに関する費用は市からの指定管理料でまかない、営業部門は民間事業者が運営することを想定している

○売店について

- ・市内には生産法人等がほとんどないことから、朝市のグループやJA、農振地区などをお願いしているが、冬場の出荷が少ない状態
- ・農産物販売は委託販売方式で、手数料は生鮮15%、加工品20%に設定

○防災機能について

- ・自家発電は当該建物のみ容量に対応
- ・一時避難スペースとして、300人・3日間の避難に対応可能
- ・災害時は施設内での動き等の想定はしているが、具体的には防災計画のなかのマニュアルで対応することになる

○地域のコミュニティ活動との関わりについて

- ・ワークショップや6自治会の懇談会のなかで地域交流スペースの要望があり、会議スペース等を設けた経緯がある
- ・地域交流スペースの会議室利用は540円/h（自治会利用に対する減免措置あり）

○定休日や駐車場合数に対する利用者ニーズについて

- ・道路情報コーナーでのアンケート等によって利用者ニーズを把握中
- ・定休日、営業時間などの課題を踏まえて協議会等と検討して、この春から対応したいと考えている
- ・駐車場は満車状態となることもあり、土日は市役所の駐車場を開放して対応している→今後は観光バスなどとの連携も必要

○道の駅に対する市民の反応について

- ・市と協議会によって「管理運営計画」を作成したが一長一短あるのが実状（例えば、できるだけオール竹原にしたいが安定供給ができない、売りとしてフレンチイタリアンのレストランとしたがうどん・そばの要望がある）
- ・まちなみ保存地区の駐車場が不足していたが、道の駅ができたことで駐車場が確保できた
- ・道の駅に駐車して、道の駅に寄ってからまちなみ保存地区へ行くという回遊性が生まれた
- ・道の駅レストランは満席で待ち時間が発生することも多く、飲食マップによってお客さまが周辺の飲食店へ流れているという状況もある



施設外観



駐車場



施設エントランス



ホール



道路情報提供コーナー



レストランメニュー



売店



地域交流スペース



観光情報コーナー



②呉市安浦市民センター 概要説明・質疑応答

<建設の経緯>

- ・合併前は役場、保健センター、図書館が分散していたが、合併時に支所と図書館を合わせて建設したいという希望をもっており、支所建設は合併建設計画事業として実施
- ・候補地3ヶ所のうち、行政機能の集約を図るということで現在地に決定した
- ・建設用地は公民館の駐車場であり、公民館の駐車場が80台から50台へ減少したため、現在は徒歩5分ほどの市立保育所近くに駐車場を確保している

<支所の機能>

- ・呉市では「市民センター」を市民部に位置づけ、協働を進めるとともに、地域拠点として機能させるために、市民センターのなかに支所と公民館係をおいている（支所と公民館が近くなったことで、職員間の協力体制もより円滑になった）
- ・安浦市民センターの職員数は正規職員14名、嘱託職員2名で、窓口業務（農業、土木、住宅、福祉等の受付）、個別案件への対応を実施（安浦地区の人口は12,000人）
- ・図書館の職員数は正規職員2名、嘱託職員・アルバイト4名（市民部とは別）、開館時間は9:00～20:00（4月以降は利用状況を踏まえて18:00までに変更）
- ・待合ロビーは投票所や期日前投票等の選挙会場としての使用や、展示等の催物開催を想定して広めにとっている（事務室91㎡、ロビー115㎡）
- ・地域協働スペースは地域の各種団体が利用する部屋で、書類作成を行うパソコンやプリンター、ポスター作成等ができる大型プリンターを備えている
- ・会議室は小規模のため、人数が多い会議は公民館の会議室を利用している



市民センター外観



待合ロビー



支所事務室(カウンター)



図書館



会議室



地域協働スペース

○緊急時の拠点や対応について

- ・緊急時には支所が拠点となる（豪雨災害時は消防署出張所・消防団と支所が一体となって対応）
- ・災害や被害の発生時に、住民はこれまでの習慣から支所へ連絡することから、支所が本庁や消防署への情報の振り分けと伝達を行っているのが実状
- ・支所と消防署の出張所は 100m 程度の範囲にある
- ・緊急時の連絡手段は、合併前から防災行政無線を使用（消防団へは団員のメール登録による連絡を実施）

○地域協働スペースについて

- ・基本的に市民へ開放しており、地域活動団体の活動は全て受け入れている（安浦地区の活動組織や活動内容はだいたい把握している）
- ・まちづくり協議会がプロバイダー契約を行っており、インターネットの利用も可能
- ・消耗品等の経費は、まちづくり協議会への市補助金のなかから、事務費等として支出している
- ・各団体の個別の事務局スペース等は設けていない
- ・まちづくりサポーター1 名が常駐し、安浦町内で活動する各種団体間の連絡・調整やイベントのコーディネートを行っている

○呉市の地域づくりについて

- ・呉市では地域協働課のなかにまちづくり担当を配置している
- ・自治会連合会ごとにまちづくり協議会を設置し、協議会や各種の実行委員会等がまちづくり計画に対する市からの補助金（人口割）を活用して活動している

○「まちづくりサポーター」について

- ・市民センターを拠点に、地域内の各種団体の支援活動を行っている市民を「まちづくりサポーター」として市が委嘱
- ・活動は無報酬とするものの、市民センターにデスクを確保するなど各種の便宜を図る

まちづくりサポーターの役割

- ◆まちづくり委員会・協議会及び各種コミュニティの活動支援
 - ◆地域協働推進における市の活動支援
- 行政（呉市）のサポーターに対する支援
- ◆市民センター及び地域協働課の設備利用
 - ◆呉市市民共益活動保険の適用
 - ◆その他活動に必要な便宜

○「安浦町地区社会福祉協議会」について

- ・呉市が各市民センターに設けている自治会、民生委員協議会等のまちづくりに関する団体の協議会の事務局が支所に入っている（法人社協とは異なる組織）

◎参加者アンケートから

1 視察の感想

- ・大変参考になり良かった。大野支所と併合して、賑わいの場所（海の駅）などができれば良いなという話を良く聞くので、その方向で今後話し合いが進むよう希望しています。
- ・実際に機能しているものを見られて検討する際にイメージがしやすくなったと思います。駐車スペースは大事ですね。
- ・「たけはら道の駅」「安浦市民センター」共に、市と市民の協働を考えられていて、今後の支所建替え検討の参考になりました。
- ・道の駅においては、利益が出ているかは疑問であるが、町の活性化にはなるのではないかと。市民センターにおいては、特別な感想はありません。
- ・ピッタリとは当てはまらないが参考になった。
- ・道の駅たけはらは大変参考になりました。是非、活性化策に取り入れたい。
- ・安浦市民センターは、参考になりました。
- ・道の駅については、質疑が非常に参考になりました。採算ベースから考えると難しいように思える。
- ・安浦市民センターについては、スペースが524㎡と非常に狭い。規模的には小さすぎる。機能的にも大野支所とは比較にならない。同じ規模スペースの役所の視察をしたい。
- ・支所跡地を考えたとき参考になるが、同様の施設では今後の運営に問題点が残る。
- ・安浦市民センターは支所と公民館の共通化、本庁との業務の分担など参考になった。合理化につながると思う。
- ・とても参考になりました。道の駅と市民センターの複合型は地場産業の育成と消費活動という面を考えると、とても面白いものができそうです。

2 他の視察先の希望

- ・市民活動センターの先進事例があれば、是非視察したい。
- ・他に2～3箇所の視察を希望します。

3 その他

- ・商工会のプロジェクトチームの発表を楽しみにしてください。
- ・大野支所の場所は、必要機能を充実すること。それから建設規模を考えたらどうか。
- ・現位置でのイメージはできるが、福祉センター前では、イメージはできそうにありません。